

両親の養育態度が中学生の社会的スキル および生活充実感に及ぼす影響

青木多寿子・谷口弘一¹・竹嶋飛鳥²・戸田真弓³

(2008年10月2日受理)

The Effects of Parenting Attitudes over Social Skills and the Sense
of Well-being in Middle School Students

Tazuko Aoki, Kouichi Taniguchi, Asuka Takeshima and Mayumi Toda

Abstract: This study examines how the effects of parenting attitudes on the well-being and social skills in middle school students. One hundred sixty seven students of 7th and 8th grade participated in this research. The parental attitudes examined were over protectiveness and over negative. In the middle school students we looked at the following skills, participation in group, maintaining relationships and improving relationships. We analyzed these relations while paying attention to the combination of gender differences. The results were as follows; in both parent's overprotective promotes boy's improving relationship skills and the boys who had high relationship skills felt better sense of well-being. In girls, whose both parents were rejecting to children have relatively lower sense of well-being. However the father's rejection, also positively effected to the girl's relationship skills. And the girls who have more developed relationship skills, have better sense of well-being. The influence of overprotective attitudes and negative attitudes including combination of gender differences was discussed.

Key words: both parents parenting attitude, middle school students, combination of gender difference, social skills, well-being

キーワード：両親の養育態度，中学生，異性の親の影響，社会的スキル，生活充実感

子ども同士の結びつきの弱さから生じるいじめや学級崩壊などの問題，対人関係のつまづきによるストレス，不登校など心の問題も数多く指摘されている。このような問題が生じる理由の一つに，社会的スキルの乏しさや欠如，あるいは不適切さが挙げられる (Conger & Keane, 1981; 坂野, 1991; 佐藤・佐藤・高山, 1988)。社会的スキルとは，良好な人間関係を形成し，維持していくための人間関係に関する知識と具体的な技術やコツの総称である (相川, 2000)。そ

して社会的スキルは，性格のような先天的なものではなく，生後の経験を元に後天的に習得される。つまり，社会的スキルは学習を通じて獲得される行動である (鈴木・庄司, 1990)。

社会的スキルを学習する場面には，家庭や学校，地域などさまざまな場面が考えられるが，中でも家庭は重要な場面といえる。なぜなら，子どもは家族という第一次集団の中で親の行動を観察・モデリングし，親からのしつけを通して，基礎的な社会的スキルを獲得すると考えられるからである。先行研究からは親の愛情的な養育態度が子どもの社会的スキルを高め (Argyle & Henderson, 1985)，過保護で拒否的な養育態度が社会的スキルを低下させる (Argyle et al.,

¹ 同志社大学文学部

² 倉敷市立茶屋町小学校

³ 倉敷市立新本小学校

1985; Scott, Scott, & McCabe, 1991) ことが見いだされている。

戸ヶ崎・坂野 (1997) は、家庭と学校の二つの場面での社会的スキルを取り上げ、小学生を対象に、親の養育態度、子どもの社会的スキル、クラス内地位の関連について検討を行っている。彼女らは家庭における社会的スキルが、関係維持行動、関係向上行動、主張行動で構成されていること、学校における社会的スキルが関係維持行動、関係向上行動、関係参加行動で構成されていることを明らかにしている。また、母親の積極的拒否傾向が強いほど、家庭における社会的スキル (特に、関係維持行動、関係向上行動) の獲得が低いこと、そして、家庭における社会的スキルが学校における社会的スキル (特に、関係維持行動、関係参加行動) に影響を与え、学校における社会的スキル (特に、関係向上行動、関係参加行動) がクラス内地位を高めるように機能していることを明らかにしている。

同様に、谷口・田中 (2004) は、小学生と高校生を対象にして、母親の養育態度 (愛情的・拒否的傾向)、子どもの社会的スキル (共感的・主張的スキル)、学校適応感との関連を検討し、以下のような結果を見だしている。小学生では母親の養育態度が学校適応感に対して直接的な影響を与えているだけでなく、社会的スキルを仲介した間接的な影響も与えていた。一方、高校生では、母親の養育態度が学校適応感に対して社会的スキルを仲介した間接的な影響のみを持っていた。こうした結果から、彼らは年齢の増加とともに、母親の養育態度よりも社会的スキルの方が学校適応感に対して、より重要な役割を果たすようになることを指摘している。

ところで、親の養育態度と子どもの社会的スキルあるいは適応行動との関連を検討した研究では、上述した戸ヶ崎・坂野 (1997) や谷口・田中 (2004) のように、母親の養育態度のみを扱っているものや、父親と母親を明確に区別せずに、いずれか一方の親からのデータを任意に収集しているものが多い (e.g., Ladd & Price, 1986; Scott et al., 1991)。こうした研究結果からは、父親と母親それぞれの養育態度が子どもの社会的スキルや適応行動にどのような影響を与えているかについて正確に理解することは困難である。大野・柏木 (1997) は、父子関係は、母子関係と比較して、関係が非対等的であることや心理的距離が遠いことなど、両関係には様々な相違点が存在することを指摘している。従って、父親と母親の養育態度が、社会的スキルや適応行動に対して、それぞれ異なる影響パターンを持っている可能性は十分に考えられるのである。

この点、青木・竹嶋・戸田・谷口 (2007) は、父親

と母親のそれぞれの養育態度が子どもの社会的スキルに及ぼす影響を小学生を対象にして検討し、両親の影響過程に違いがあることを示している。しかし、親の影響過程は、性別意識の強くなり、親からの自立心が芽生える中学生の方が、複雑なのではなからうか。このように考えると、中学生の社会的スキルに及ぼす親の養育態度の研究を行うには性別を考慮する必要があるといえよう。

以上のような先行研究を踏まえて、本研究では、中学生を対象に、父親および母親の養育態度が、子どもの社会的スキルや適応行動に対してどのような影響を与えているか、親子間の性別の組み合わせも考慮に入れながら詳細に検討を行う。親の養育態度については、過保護および拒否的養育態度の二つを取り上げる。なぜなら、近年の児童虐待の増加には目を見張るものがあり、他方で、小児化ゆえの過保護も問題視されているからである。子どもの社会的スキルについては、戸ヶ崎・坂野 (1997) が学校での社会的スキルとして見いだした関係維持行動、関係向上行動、関係参加行動の三つのスキル行動を、子どもの適応行動については生活充実感を取り上げた。

方 法

調査参加者および手続き

参加者は岡山県内の公立中学校1年生81名と2年生86名の合計167名 (男子79名, 女子88名)。調査は無記名選択式で、2004年9月~12月に実施した。

調査内容

親の養育態度 戸ヶ崎・坂野 (1997) にしたがってTK式診断的新親子関係検査 (品川・河井・森上・品川, 1972) を用いた。この中から、拒否的態度非難型8項目と保護的態度干渉型8項目の合計16項目を用いた。調査参加者は、これらの項目について父親の場合と母親の場合それぞれの回答をした。回答は“ぴったりあてはまる (4点)”から“ぜんぜんあてはまらない (1点)”までの4件法であった。各項目の合計点を、拒否的および過保護な養育態度得点とした。各項目の α 係数は、拒否的.80, 過保護.66であった。

社会的スキル尺度 戸ヶ崎・坂野 (1997) の学校における社会的スキル尺度のうち、関係維持行動、関係向上行動、関係参加行動から各5項目ずつ合計15項目を用いた。回答は、“ぴったりあてはまる (4点)”から“ぜんぜんあてはまらない (1点)”までの4件法であった。全15項目に対して、因子数を3に固定した因子分析 (主因子法、プロマックス回転) を行った。因子負荷量の絶対値が.40以上となる項目を採用し

(Table 1), 各因子に含まれる項目の合計点を項目数で割った値を社会的スキル得点とした。α係数は、関係維持行動が.68, 関係向上行動が.77, 関係参加行動が.76であった。

生活充実感評定 平石 (1990a, 1990b) の自己肯定意識尺度から充実感を測定する8項目に、中山・藤原 (2003) によって作成された生活満足度を測定する3

項目を加えた合計11項目を用いた。回答は、“びったりあてはまる(4点)”から“ぜんぜんあてはまらない(1点)”までの4件法であった。全11項目に対して、因子数を1に固定した因子分析(主因子法)を行った。因子負荷量の絶対値が.40以上となる項目を採用し (Table 2), 各項目の合計点を項目数で割った値を生活充実感得点とした。α係数は.89であった。

Table 1 社会的スキルの因子分析結果

質問項目	因子負荷量		
	I	II	III
I 関係向上行動 (α=.77)			
2 友だちが失敗したらはげましてあげる。	.77		
10 相手の気持ちを考えて話す。	.69		
18 友だちのたのみをよく聞いてあげる。	.67		
6 こまっている友だちを助けてあげる。	.64		
14 友だちの意見に反対するときには、きちんとその理由を言う。	.42		
II 関係参加行動 (α=.76)			
15 休み時間に友だちとあまりおしゃべりをしない。(※)		.81	-.10
19 友だちにあまり話しかけない。(※)	-.13	.74	
3 友だちとはなれて一人で遊ぶ。(※)	.12	.61	.12
11 友だちの遊びをじっと見ていることが多い。(※)	.14	.52	.14
7 遊んでいる友だちの中に入ろうとしても、なかなか入れない。(※)	.14	.47	
III 関係維持行動 (α=.68)			
9 友だちに乱暴な話し方をする(※)			.73
1 よく友だちのじゃまをする。(※)			.60
13 友だちの欠点や失敗をよく言う。(※)		.16	.51
5 なんでも友だちのせいにする。(※)			.50
寄与率 (%)	19.31	14.02	6.43
累積寄与率 (%)	19.31	33.32	39.75

(※) は逆転項目

Table 2 生活充実感の因子分析結果

質問項目	因子負荷量
生活充実感 (α=.89)	
24 生活がすごく楽しいと感じる。	.76
28 精神的に楽な気分である。	.75
27 充実感を感じる。	.75
31 自分のはびのびと生きていると感じる。	.75
26 学校は楽しい。	.72
30 自分の好きなことがやれていると感じる。	.70
29 家族といっしょにいると楽しい。	.68
32 仲間と力をあわせて1つの目標に向かってがんばる。	.62
34 心から楽しいと思える日がない。(※)	-.54
33 満足感がもてない。(※)	-.52
寄与率 (%)	43.67
累積寄与率 (%)	43.67

(※) は逆転項目

結果

親の養育態度が、社会的スキル、生活充実感に影響を与えているかどうかを検討するために、外生変数を父親または母親の養育態度、内生変数を社会的スキルおよび生活充実感とした重回帰分析に基づくパス解析を男女別に行った。得られた標準回帰係数 (β) をパス係数とし、パス図には、有意であるパスのみを矢印で描いた。

父親の養育態度の影響過程 男子では父親の過保護な養育態度だけが生活充実感に対してポジティブな直接的影響を与えていた (Fig.1)。すなわち、父親が過保護だと生活充実感が高いということが明らかとなった。しかし、父親の養育態度は拒否的であれ、過保護であれ、社会的スキルの獲得に直接影響していないことがわかった。

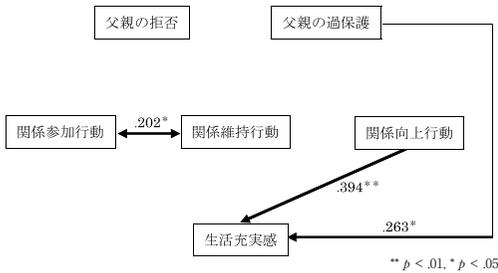


Fig.1 男子における父親の養育態度、社会的スキル、生活充実感の関連

女子では父親の拒否的養育態度が、直接生活充実感にマイナスの影響を与えていた。さらに、父親の拒否的態度は社会的スキルの獲得にも影響し、関係維持行動にマイナスの影響を及ぼしていた。他方で父親の拒否的態度は関係向上行動にポジティブな影響を与え、引き続いて、関係向上行動が生活充実感にポジティブな影響を与えていた (Fig.2)。これらのことから、女子にとって異性である父親の拒否は社会的スキルの獲

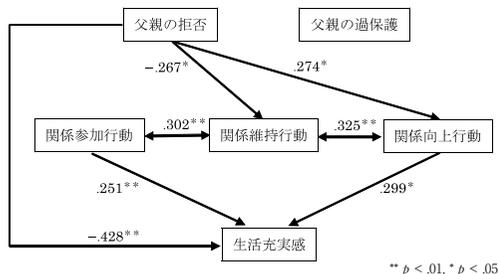


Fig.2 女子における父親の養育態度、社会的スキル、生活充実感の関連

得だけでなく、生活充実感にも影響を与えることがわかった。

母親の養育態度の影響過程 男子では、母親の過保護な養育態度が、直接関係向上行動にポジティブな影響を与え、次いで、社会的スキルの獲得にも影響を及ぼし、それが生活充実感にポジティブな影響を与えていた (Fig.3)。加えて、母親の過保護な養育態度は、直接生活充実感にも影響していた。すなわち、異性である母親が過保護であれば、関係向上行動という社会的スキルの獲得の程度が高まり、そして、関係向上行動を多く獲得している男子ほど、生活充実感も高いことがわかった。他方、男子の場合、異性である母親の拒否的態度は関係維持行動にマイナスの影響を与えていることもわかった。

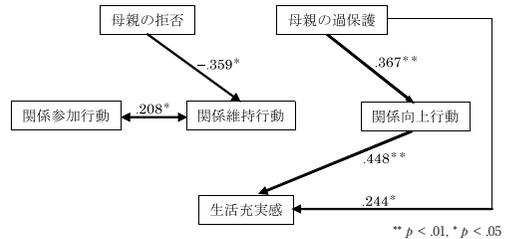


Fig.3 男子における母親の養育態度、社会的スキル、生活充実感の関連

女子では、母親の拒否的養育態度が、子どもの生活充実感に対してネガティブな直接的影響を与えているが、母親の養育態度は社会的スキルの獲得には影響していなかった (Fig.4)。すなわち、母親が拒否的であるほど、女子の生活充実感は低下するが、同性である母親の養育態度は社会的スキルの獲得に影響していないことがわかった。

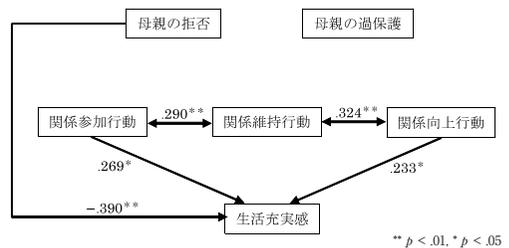


Fig.4 女子における母親の養育態度、社会的スキル、生活充実感の関連

考察

父親の拒否的態度は女子の関係維持行動に、母親の拒否的養育態度は男子の関係維持行動にと、社会的ス

キルに関しては異性の子どもに直接、マイナスの影響が出るということがわかった。

戸ヶ崎・坂野(1997)においても、母親の養育態度が拒否的であるほど、学校における子どもの関係維持行動の獲得程度が低いということが見いだされており、本研究の結果は、彼女らの知見と一致するものである。つまり、異性の親の拒否的傾向が高いと、友達に乱暴な話し方をしたり、友達の邪魔をしたり、友達の欠点や失敗をよく言ったりして友達関係を維持しにくい傾向がみられることになるということだろう。

同性の親の場合、同性であるが故に、自分の周囲には親だけでなく、親族、教師、地域の人など、多くの同性の人に知り合う機会が多い。例えば、親が否定的な態度を示す場合親の養育態度に問題があっても、社会的スキル獲得を他から補うルートがあると考えられる。この点、自分の性を意識し始める中学生では、異性の親の養育態度が極端な場合、異性の親から学ぶ社会的スキルを他のルートで補うことが同性の親の場合よりも難しくなる。このため、異性の親の拒否的態度は同性の親以上に顕著に出るのではなかろうか。

他方で父親の拒否的養育態度は、女子の関係向上行動に限ってはポジティブな影響を与えていた。友達を励まし、助けるといった関係向上行動の獲得程度が高くなるという結果である。こうした結果は、拒否的養育態度と社会的スキルが負の相関を持つことを示した先行研究(谷口・田中, 2004; Taniguchi & Ura, 2001; 矢野・浦, 1996)とは異なるものである。

この結果については二つの可能性が考えられる。まずひとつは、父親の拒否的態度の影響を受けて低くなった社会的スキルを補うため、補償として関係向上行動が高くなったと考えられる。家庭環境のバランスを取るようスキルが発達することで、個性が生じるともいえるだろう。もう1つの考え方は、中学生が心理的離乳の時期に当たることに関係する。中学生を対象にした五十嵐・萩原(2004)は、両親に対する愛着スタイルと不登校との関連について検討を行い、その中で、学年が上がるにつれて、父親が拒否的で信用できないと感じる子どもが多くなることを指摘している。彼らは、こうした結果を、親への依存を弱め、時に、親に対して拒否的な態度を表現して自立を図っていくという、思春期特有の心理的様相を示したものと解釈している。このような見解に基づくと、父親が拒否的であるほど、関係向上行動が高いという本研究の女子の結果は、異性である父親との関係から心理的にある程度距離をおけるほどに自立している生徒は、親から心理的距離が保てているが故に友人との関係がうまくいくように相手に気を配ることができているこ

とも考えられる。つまり、父親そのものが拒否的というよりは、親から心理的に、ある程度距離を保てている女子が父親の態度を拒否的だと感じるとする考え方である。

他方で関係向上行動では、男子は過保護的な養育態度が関係向上行動にプラスに影響を与えていた。この観点から考えると、友達が失敗したら励ます、相手の気持ちをよく考えて話す、友達の頼みをよく聞いてあげるなどの関係向上行動は、否定的であれ、過保護的であれ、親の養育態度が極端なとき、その不足分を補うかのように子どもが仲間に積極的に関わって身につけるスキルではないかとも解釈できよう。

このように考えると、中学生では親の養育態度と社会的スキルの獲得には「親のモデリングをする」という側面と、親からの心理的距離の程度、親の不足面を埋め合わせて心のバランスをとるなどの側面も含まれる可能性があるのではなかろうか。

中学生とは心理的離乳を果たさなくてはならない時期であり、親の影響の仕方は複雑であると考えられる。今後は、上記の解釈の妥当性も含めて、中学生のみならず、小学生や高校生にまで調査対象者を広げて、発達差を中心に、より詳細に検討する必要がある。

異性、同性に関係なく、また、社会的スキルにも関係なく、生活充実感への親の養育態度の影響については、次の様な性差が見られた。拒否と過保護の両方の結果から、女子では両親の拒否的養育態度が生活充実感にマイナスに作用し、男子では両親の過保護が生活充実感にプラスに作用することがうかがえた。中学生では、女の子は拒否されると生活が楽しくなくなり、男の子は手をかけてもらうと幸せになると言う結果である。子どもの性別によって親の養育態度の影響に差があることから、生活充実感に関しては同じ一人の親でも、男子はポジティブな側面から、女子はネガティブな側面から、親からの影響の受けていることが示唆される。

この性差に関しては、次のように考察できる。中学生男子は、親との関係に対して、女子が示す認知内容以外に、「親が子と手を切る関係」であるとも認知しているという(落合・佐藤, 1996a)。すなわち、男子は、親から心理的に独立しなくてはならないと思っている反面、困難な事態などでは援助をしてほしいとも考えている。このため、男子では親の過保護な養育態度と生活充実感との間にポジティブな関連が認められたのかもしれない。他方、中学生の女子は落合・佐藤(1996a)によると、親との関係について、「子が困ったときには親が支援する」、「親が子を危険から守る」と認知している傾向が高い。このような親に対する愛

情的な関わりを強く求める傾向から、親の拒否的養育態度と生活充実感との間にネガティブな関連を生じているのではないだろうか。つまり、男子は独立・自立を前提としているので過保護な態度は生活充実感にプラスに影響し、女子は親の受容性を前提としているので、拒否に敏感であるのかもしれない。

最後に、本研究の課題について述べる。本研究で扱った全ての変数は、調査参加者である中学生による自己報告式尺度である。また、親の養育態度を質問するというナイーブな調査であるため、調査の協力が得にくく、被験者の数が少ない点にも改善の余地がある。今後の研究では、養育態度、社会的スキル、生活充実感を、それぞれ異なる人に評定させて、各変数間の関連を詳細に検討する必要がある。

【引用文献】

- 相川充 (2000). セレクション社会心理学20 人づきあいの技術——社会的スキルの心理学——サイエンス社 (Aikawa, M.)
- 青木多寿子・竹嶋飛鳥・戸田真弓・谷口弘一 (2007). 両親の養育態度、生活体験が小学生の社会的スキル、生活充実感に及ぼす影響 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部 (学習開発関連領域), **56**, 21-28. (Aoki, T., Takeshima, A., Toda, M., & Taniguchi, K.)
- Argyle, M., & Henderson, M. (1985). *The anatomy of relationships and the rules and skills to manage them successfully*. UK: Penguin books. (アーガイル M.・ヘンダーソン M. 吉森謙 (編訳) (1992). 人間関係のルールとスキル 北大路書房)
- Conger, J. C., & Keane, S. P. (1981). Social skills intervention in the treatment of isolated or withdrawn children. *Psychological Bulletin*, **90**, 478-495.
- 平石賢治 (1990a). 青年期における自己意識の構造——自己確立感と自己拡散感からみた心理学的健康——教育心理学研究, **38**, 320-329. (Hiraishi, K. (1990a). The structure of self-consciousness in adolescence: psychological health from a point of view of "self-establishment" and "self-diffusion". *The Japanese Journal of Educational Psychology*, **38**, 320-329.)
- 平石賢治 (1990b). 青年期における自己意識の発達に関する研究 (I) ——自己肯定性次元と自己安定性次元の検討——名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), **37**, 217-234. (Hiraishi, K. (1990b). A study on the development of self-consciousness in adolescence (I): An examination of two dimensions of self-consciousness (positive-negative, stable-unstable) *Bulletin of the Faculty of Education. The Department of Educational Psychology*, **37**, 217-234.)
- 五十嵐哲也・萩原久子 (2004). 中学生の不登校傾向と幼少期の父親および母親への愛着との関連教育心理学研究, **52**, 264-276. (Igarashi, T., & Hagiwara, H. (2004). Junior high school students' tendency toward non-attendance at school and attachment in early childhood. *The Japanese Journal of Educational Psychology*, **52**, 264-276.)
- 井上恭子 (1995). 児童期後期における社会的スキルと母親の養育態度との関連 臨床教育心理学研究, **21**, 137-146. (Inoue, K. (1995). Mother-child relationships and social skills in school children. *Journal of clinical and educational psychology*, **21**, 137-143.)
- Ladd, G. W., & Price, J. M. (1986). Promoting children's cognitive and social competence: The relation between parents' perceptions of task difficulty and children's perceived and actual competence. *Child Development*, **54**, 446-460.
- 中山真美・藤原綾子 (2003). 児童の生活満足度と主体性・協調性との関連——集団遊びの志向性との関連と性差——岡山大学教育学部卒業論文 (未公開). (Nakayama, M., & Fujiwara, A.)
- 落合良行・佐藤有耕 (1996a) 親子関係からみた心理的離乳への過程の分析 教育心理学研究, **44**, 11-22. (Ochiai, Y., & Satoh, Y. (1996a). An analysis on the process of psychological weaning. *The Japanese Journal of Educational Psychology*, **44**, 11-22.)
- 落合良行・佐藤有耕 (1996b). 青年期における友だちとのつきあい方の発達の变化 教育心理学研究, **44**, 55-65. (Ochiai, Y., & Satoh, Y. (1996b). The developmental change of friendship in adolescence. *The Japanese Journal of Educational Psychology*, **44**, 55-65.)
- 大野祥子・柏木恵子 (1997). 父親 児童心理学の進歩, **36**, 123-147. (Oono, S & Kashiwagi, K.)
- 坂野雄二 (1991). Social Skills の概念規定と SST の発展に関する展望 集団精神療法, **7**, 83-89. (Yuji Sakano (1991). Some theoretical considerations on social skills and recent development of social skills training: A review. *Official journal of the Japan Association of Group Psychotherapy*, **7**, 83-89.)
- 佐藤正二・佐藤容子・高山巖 (1988). 拒否される子

- どもの社会的スキル 行動療法研究, 13, 126-133. (Sato, S., Sato, Y., & Takayama, I. (1988). Social skills of rejected children. *Japanese Journal of Behavior Therapy*, 13, 126-133.)
- Scott, W. A., Scott, R., & McCabe, M. (1991). Family relationships and children's personality: A cross-cultural cross-source comparison. *British Journal of Social Psychology*, 30, 1-20.
- 品川不二郎・河井芳文・森上史朗・品川孝子 (1972). TK式診断的新親子関係検査手引 田研出版 (Shinagawa, H., Kawai, Y., Moriue, S., & Shinagawa, T.)
- 鈴木聡志・庄司一子 (1990). 子どもの社会的スキルの内容について 教育相談研究, 28, 24-32. (Satoshi Suzuki and Kazuko Shoji (1990). The contents of children's social skills. *Bulletin of Counseling and School Psychology*, 28, 24-32. Suzuki, S., & Syoji, K.)
- 谷口弘一・田中宏二 (2004). 親の養育態度が児童・生徒の社会的スキル, 学校適応感, および絶望感に及ぼす効果 岡山大学教育学部研究集録, 127, 21-27. (Taniguchi, H., & Tanaka, K. (2004). The effects of parents' child rearing attitudes on social skills, school adaptation and hopelessness among elementary and high school students. *Bulletin of faculty of education, Okayama university*, 127, 21-27.)
- Taniguchi, H., & Ura, M. (2001). The links between parents' child rearing attitudes, children's social skills, and support giving and support receiving in friendships among children. *Japanese Journal of Social Psychology*, 17, 12-21.
- 戸ヶ崎泰子・坂野雄二 (1997). 母親の養育態度が小学生の社会的スキルと学校適応に及ぼす影響—積極的拒否型の養育態度の観点から— 教育心理学研究, 45, 173-182. (Togasaki, Y & Sakano, Y. (1997). Effects of mother's attitude for child rearing on social skills and school adaptation in elementary school children: From the point of view of the attitude for child rearing of active refusal type. *The Japanese Journal of Educational Psychology*, 45, 173-182.)
- 徳田完二 (1987). 青年期における自己評価と両親の養育態度 心理学研究, 58, 8-13. (Tokuda, K. (1987). Adolescent self-esteem and parental child-rearing attitudes. *The Japanese Journal of Psychology*, 58, 8-13.)
- 徳永和子 (2002). 女子青年における母性準備性に関する一考察——ソーシャルスキル・養育態度の観点からの検討—— 臨床教育心理学研究, 28, 67-77. (Tokunaga, K.)
- 矢野里佳・浦光博 (1996). 母親の養育態度と子どもの社会的スキルの関連 日本社会心理学会第37回大会発表論文集, 308-309. (Yano, R. & Uramitu, H.)